



新田焼夷弾空襲 昭和20年6月15日

昭和20年6月15日、新田地区に焼夷弾が次々と落とされ、集落の15軒の家が一度に全焼、3軒が半焼した。この空襲による死者はなかったが、新田の初瀬街道沿いの村一帯が炎に包まれた。市内で最大規模の戦火の被害になった。

空高く飛ぶ戦闘機が、だんだん低く飛ぶようになりまし。空襲警報がよく発令されるので、小学生の私は、勉強どころではなかつたです。
麦の穂が実り始めた6月15日。飛んできたB29が、束になった焼夷弾を雨のように落と



新田 実さん (81歳)

燃えていく家々を
ただ見ているだけでした

村の男性の多くは、出征していたため、消火する人手もなく道具もありません。火の勢いが収まってから、子どもたちの私たちが消火を手伝いに行きました。
その後、焼夷弾や美旗駅を狙う機銃掃射もあり、犠牲になった人や足をケガした人が小学校の講堂に運ばれ、負傷した人の足をのこぎり足で足を切断する様子も見ました。
国のためと2人の兄も、召集令状が届き出



美旗の戦死者名簿の中に、戦死した槌さんのお兄さんの姿が掲載されている

征し、それぞれ、フィリピンとマライ半島で戦死しました。
あの時の苦しくて辛い時代に比べると本当に平和になりました。でも毎日、悲しい事件が起こるのは悲しいことです。

赤目口駅空襲 昭和20年7月24日

昭和20年7月24日午前9時過ぎ、赤目口駅で米軍グラマン3機が赤目駅上空に飛来。電車やプラットフォームを目撃機銃掃射を浴びせた。死者50人、負傷者113人。(S57赤目町遺族会「おもかげ」より) 一瞬にして多くの命が失われた。



赤目町一ノ井 福岡 千恵子さん (89歳)

血の海の惨劇
九死に一生の体験

私は当時19歳で、滝川村農業産産業組合(現・農協)で働いていました。昭和20年7月24日午前、いつもと同じように出勤してから、職場の同僚の弟さんが出征するというので、赤目口駅まで見送りに行くことになりました。
駅は、出征を見送る人や大阪方面へ出掛け

る人などで賑わっていました。私は、名張方面行きのホームまで上がり見送ることにしました。電車が来るまで桜の木の下で談笑していると、反対側の線路に電車がやって来たと同時に、電車と平行して飛ぶ三機のグラマンの姿が。そして同時にバリバリと機銃掃射の激しい音がしました。桜の木の下にたくさん集まっていた、私は一番上に重なるように、もうだめだと「お母さん」と声を上げ、伏せました。
しばらくして頭を上げると、私の下にいた人も血を流し、周囲の人も頭や足が血だらけ、電車の中も血の海です。卒倒しそうになり、泣いて泣いて、足が震えて何もできまませんでした。電線が何本も切れて、その電線をまたいで改札口へ歩いて行くと、知り合いの人が「無事でよかったです」と抱きしめてくれてほっとしました。
犠牲者が運ばれた小学校の講堂に手伝いに



赤目出身の戦死者と赤目口駅空襲の犠牲者を弔う忠魂碑がある(赤目町壇)

行くと、多くの人が横たわっていました。「兵隊さん助けて」と血だらけになった人がうめき声を上げて手を伸ばす光景が今でも忘れられません。



特集

名張にも戦争があった 一人一人の記憶が惨劇の証拠

決して忘れてはならない名張で起こった戦争の場面。体験者からそれぞれの記憶を聞きました。70年たった今でも、鮮明に残る光景。出征した人はもちろん、残された女性や子どもも全ての人が戦争の当事者です。



B29 青蓮寺墜落 昭和20年6月5日

神戸大空襲の攻撃に参加した米軍爆撃機 B29 が、帰還途中、紀伊半島上空で日本部隊の攻撃を受け、そのうち一機が昭和20年6月5日午前8時40分ごろ、青蓮寺一ノ谷の山中へ墜落。地元の人たちは、平成18年に墜落現場に慰霊碑が建立し、毎年供養をしている。

当時は、学校の運動場や近くの山を耕し畑にし、芋を植えたり、炭焼きをしたりしていました。家でも農作業を手伝うなど、子どもも勉強どころではなく、国のため家族のために働いていました。名張は、戦闘機などがよく上空を飛び、そ



箕曲中村 辻本 政子さん (81歳)

B29 戦闘機が 黒煙を上げて集落に

の度に空襲警報のサイレンが鳴りました。その日も、学校から開墾地に着いた途端にサイレンが鳴り、麦畑に潜みながら学校へ引き返しました。上空では米軍の爆撃機 B29 が炎と黒煙を上げて低空飛行し、逃げるため機体から次々とパラシュートで落下していました。先生らと校門でその様子を眺め、不安と恐ろしさに身が震えていました。今にも校舎にぶつかろうとする低空を旋回し、B29 は激しい音を鳴らしながらそのまま青蓮寺の山中に墜落しました。そして周囲にいた人たちが「バンザイ、バンザイ」と叫びました。帰宅すると、わが家の田に仰向けになった状態の大きな米兵の焼死体が横たわっていました。パラシュートで脱出したであろう、初めて見るアメリカ人の姿に驚きました。しばらく多くの人を列をなして見物にきました。また毎日ほど、名張駅へ出征する人を見送りに行きました。「幼い子どもや家族をよろ



青蓮寺墜落地点の近くの地中から発見された B29 の機体の一部と見られる残骸

しくお願いします」と挨拶し旅立つ人、自分の歳と変わらない13歳の男の子が志願兵として出征する姿を思い出します。見送りながらも子どもながら悲しかったです。

蔵持小に機銃掃射 昭和20年6月9日

昭和20年6月9日午後、蔵持地区に米軍機が襲来。蔵持国民学校(現蔵持小学校)や付近の民家に機銃掃射した。死者は出なかった。校舎や講堂は撃たれ講堂にあったピアノにも銃弾が貫通した。ピアノは戦災の象徴として、武道交流館いきいきで保存している。

蔵持小学校は、少し高台に建つ立派な大きな建物でしたが、少しでも目立たぬよう壁が黒く塗られていました。私が小学校3年の6月9日、空襲警報のサイレンが鳴り、先生の指示で学校裏の防空壕に避難しました。しばらくすると落ち着き、外へ出ていいと指示が



蔵持町里 川北 克明さん (78歳)

目線の高さを飛ぶ戦闘機 操縦士の姿が見えた

ありました。家に帰ろうと走り出すと、突然、「ダダッ」と耳元で銃声が響き、とっさに地面に身を伏せ頭を抱えました。少し顔を上げて見ると、目線の高さに戦闘機が飛んでいました。操縦をしている米兵の姿まではっきり見えました。とても怖かったです。しばらく身を伏せていて、戦闘機が去った後、自分が撃たれていないかを確認しました。家までの帰り道、田んぼで草取り作業していた祖母も突然の襲来に驚いて、慌てて泥だらけになりながら逃げたと言います。家族で無事を喜びました。集落では小屋が燃えるなどしましたが延焼しませんでした。本当に犠牲者もなく良かったです。翌日学校に行くと、校舎や講堂も銃弾が撃ち込まれて、ガラスや壁が割れひどい状態でした。講堂にあったピアノにも銃弾が貫通していました。ピアノはその後もしばらく、そのま



少し高台に建つ旧蔵持小の校舎。戦時中、白い壁はコールタールで黒く塗られた

のままの状態で使っていたと思います。地元でも、この日の体験を話せる人が少なくなってきましたね。